

千年の森便り No.207

2020.10.17

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

10月12日（月）秋のきのこ観察会

10月の活動は中央博物館から講師の先生をお招きして、きのこ観察の公開行事です。例年参加者が多く賑わいますが、今年はコロナ対策の為、規模を縮小の上、検温などの安全確認をしての開催でした。昨年は台風被害が甚大で会員限定の観察会でしたから、二年連続の異常事態です。早く元に戻り、多くの方をお迎え出来るようになって欲しいものです。

また、今シーズンも講師の先生は超多忙で週末に空きが無く平日開催になってしまいました。仕事をやり繰りの上でのご参加の方々もあったと思います。ありがとうございました。

良いタイミングで雨があったので森中キノコの大豊作を期待していたのですが、それには及ばないものの、ほどほどの発生が見られました。期待の巨大コウタケには出会えなかったものの、ハカマツタケ、サクラシメシなどご常連は健在でした。

先生の同定、解説もゆっくりお聞き出来て、和やかで充実の時間になったと思います。少し気掛かりなのはどの種も小型化しているように見えた事です。今年限りの現象なら良いのですが・・・（坂本）

参加は吹春講師ご夫妻に新井通子、伊藤、鶴沢、大原、及川、栗山、坂本、田島、中田真也子、福島、松山、真鍋の会員12名、木更津の小倉さん、佐倉の相葉ご夫妻、千葉の森さん、ちば里山 Peopleの友塚さんをお迎えし合計19名でした。



まずは体温測定



昨秋台風の倒木を越えて



きのこ探し

きのこ解説の要旨

今回もベニタケの仲間がたくさん採れた。この仲間は、森の中の外生菌根菌の優占種であり、種類が多く名前がつかないものが多い。チチタケは、栃木県では世界一おいしいきのこと言われている。ウコンハツは黄色。トビチャチタケは、傷をつけると紫色に変色し、環紋があるものはウズハツ。乳液が黄変するものをキチチタケとしているが、色々な形態のものがある。

きのこ類の分類、特にイグチ科やテングタケ属を中心に、現在、中国が圧倒的に分類の研究を進めている状況。

ウスヒラタケは覚えておくべききのこ（食べられる）。

キシメジ属のカキシメジは、食べると下痢する。傷つけたところが茶色に変色する。

モリノカレバタケ属は落ち葉を分解するきのこ。

クヌギタケの仲間は形が特徴的で材から出る。種類が多い。

ツエタケは、以前は2種であったが10種以上に分けられた。

テングタケの仲間は、傘に条線があるかどうかで2分される。条線があるのは、テングタケやガンタケ、ないのはシロオニタケなど。ヘビキノコモドキは、柄の下にリング状の点々のツボがあるのが特徴。コテングタケモドキは傘が特徴的。ハイカグラテングタケは食べられるらしい。コタマゴテングタケは、つばが黄色味を帯びツボにエリがある。

胞子がピンク色に成熟するものは、ウラベニガサ科とイッポンシメジ科。ウラベニガサ属は材から出て、イッポンシメジ属は地面から出る。

ウラベニホテイシメジとクサウラベニタケは外生菌根菌。

ヒトヨタケの仲間は、基準となるササクレヒトヨタケなどが *Coprinus*（ササクレヒトヨタケ属）という属名と一緒にハラタケ科に分類が変わった。残った数多くのものは、ヒメヒトヨタケ属 *Coprinopsis*（ヒトヨタケなど）、キララタケ属 *Coprinellus*（キララタケなど）、ヒメヒガサヒトヨ属 *Parasola*（コツブヒメヒガサヒトヨタケ）の3つに分けられ、ナヨタケ科に編入された。ヒトヨタケ類は、外被膜の特徴で見分ける。

ツチナメコは、ヤナギマツタケに似て土から出る。

ニガクリタケはよく見かける重要な毒きのこ。

フウセンタケの仲間は、胞子が錆色、内被膜がクモの巣状。

オニフウセンタケは、傘の表面に尖った鱗片がある。ニューギニアにも分布している。

チャツムタケは材から出る。

イグチの仲間は、今回とれたものはヤマドリタケモドキとニガイグチ属の2種、管孔はヤマドリタケモドキが黄色、ニガイグチ属は茶色。今回、シラウオタケが出ていた。よく見かける地衣類は、子囊菌類と藻類が合体した生物だが、このシラウオタケは担子菌類と藻類が合体して地衣化している珍しいもの。（記録：福島／監修：吹春講師）

（注）今回のきのこ目録は11月号に掲載します。



きのこ解説



ウスヒラタケ



ウラベニホテイシメジ



ニガクリタケ



フウセンタケの仲間



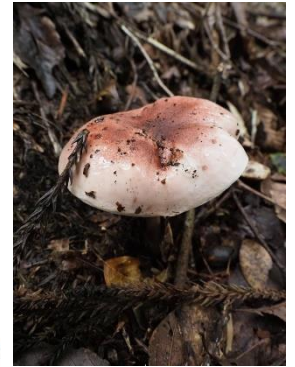
シラウオタケ

○秋のきのこ観察会

10月12日は、千年の森をつくる会の活動に参加してきました。今回はキノコの吹春先生をお招きしてのキノコ観察会。また沢山のキノコに出会えました。ちょうど初秋のキノコと秋のキノコの入れ替わりの時期。初秋に多いイグチやテングタケの仲間が少なくなっていました。またコウタケは出ていませんでした。でも今回ピンク色のきれいなサクラシメジが多く見ることが出来て、来た甲斐がありました！！

吹春先生と奥様の公子さんのお話もまた勉強になりました。豊英島での吹春先生のお話は10年ほぼ毎年聞いてきましたが、毎年少しずつお話される角度が変わって何度聞いても楽しいです。今回は特に参加が少人数だったためか質問に一つ一つに掘り下げて答えて下さいました。

家に帰ってサクラシメジの絵を描きました。改めて、そのきれいな色を見ながら、キノコは不思議だらけなんだと思いました。植物の花や実の鮮やかな色は、だいたい虫や鳥、動物を呼ぶためということの説明はつくものが多い。でもキノコの鮮やかな色は何のために??キノコを知れば知るほど、生き物は分からないことが山ほどあって、とても人が全て解明できるものではない、ということをお伝えされている気がします。(中田真也子 10/13Facebook より一部転載)



サクラシメジ



ウスタケ



カバイロツルタケ



ハイカグラテングタケ



ニガイグチ属



トビチャチタケ

○バカマツタケ探索記

森、福島の名で禁断の岬にバカマツタケを探しに行きました。森さんは南側の崖の斜面、私は尾根から北側の崖を手分けして探索しました。探し始めてすぐに、森さんからあったぞ〜との声が聞こえました。私の方は北側の崖では見つからず、尾根を越えて南側へ。崖を少し降りると、下にいる森さんから、私の前方にバカマツタケが見えるとの声が。崖を慎重にトラバースしてたどり着くと、傘が開きかけた良い形のバカマツタケが1本、半分落ち葉に埋もれて出ていました。その1本のまわりで、小型のものを含めてほかにも3本を発見。今回もご参加の皆さんにバカマツタケをお見せすることができてほっとしました。森さん、バカマツタケを見つけていただきありがとうございました。(福島)



ダイダイガサ



ワサビタケ



スギエダタケ



ビョウタケの仲間

バカマツタケ vs コウタケ vs サクラシメジ (ちば里山 People 友塚新樹さん寄稿)

ちょうど一年ぶりの豊英島。まだ台風の爪痕は島の至るところに残るのでしょうか、広場や小路のまわりは随分と片づいた感じがしました。千年広場の椅子も伐木したサクラの丸太にリニューアルされていい感じでした。さて、この日の狙いは、去年はダメだったコウタケでしたが、久々の観察会なので、まずはじっくり、きのこを観たいと思って参加しました。というのも、台風とコロナ騒ぎで千葉菌類談話会の観察会は昨年秋から全て中止。今年の6月ごろに佐倉城址公園に行ってみれば、道がまだ一部、閉鎖されて探査路に入れず、房総のむらに行っても空振り等々、きのこ縁遠くなっていましたので。

残念ながら、今年もコウタケには出会えませんでした。きのこを探して心躍る、楽しい時間を過ごせました。また、見たことのあるはずのキノコも何なのか、皆目見当がつかなくなって、ブランク中の勉強不足を大いに反省する結果となりましたが、吹春先生ご夫妻に色々教えていただき、解説を聞きながら並べられたきのこや図鑑を見比べていると少しは整理がついてリハビリができました。

気になったのは、坂本さんの「大きいきのこがなくなったね」。観察会が始まる前に「台風で樹木がやられて菌根菌が共生する木が少なくなってキノコもないかも…」とも話されていましたが、やはり関係があるのでしょうか？

帰宅後、千年の森便りのバックナンバーを読み返していて、ふと、昔あって最近見つからなくなったキノコがあるかどうか調べようと思い立ち、毎年10月の秋のきのこの観察会と11月の記録からリストを作成しようとしたのですが、大変さですぐギブアップしてしまいました(笑)。

代わりに人気のバカマツタケ、コウタケ、ウラベニホテイシメジの3つに絞り、2006年から2019年の14年分で星取表を作りました。10月の観察会で発見すれば「勝ち」、発見できなければ「負け」、11月の活動で発見を「引き分け」(0.5勝)とすると、ウラベニがダントツで勝率が高く、僅差ですが、コウタケが見つからない年がバカマツタケより多いという結果になりました。

- ・バカマツタケ：10勝3敗、1引き分け(勝率75%)直近5年は5勝全勝
- ・コウタケ：9勝3敗2引き分け(勝率71%)直近5年は3勝2分け
- ・ウラベニホテイシメジ：12勝2敗(勝率86%)直近5年は5勝全勝

なお、今年、すでにバカマツタケとウラベニは見つかっていますので、11月にコウタケがないと差が開きますが、記事やリスト中からきのこの名前を拾い出しただけで大きさ本数など(これらは観察会の参加人数にも寄るかもしれませんが)は不明、あくまでお遊びです。ですが、バックナンバーを振り返ることで千年の森をつくる会の歴史の一端に触れることができ、新しい楽しみ方を発見することができました。

○昆虫観察記録

どんよりした曇り空、虫の姿はあまり見られません。今年は、長雨と猛暑の影響なのか、虫が少ないように感じられます。虫の声よりアマガエルの大きな鳴き声が森に響いていました。ピーティング(枝をたたいて虫を落とすこと)で虫を探しました。1~2 mm の小さなクモが多いこと！同定が難しく、名前がわからないものもいます。ヒトオビトンビグモ(ワシグモの仲間)は、以前、竹の中にいたクモで、なつかしい再会です。時々ムカデやスズメバチも落ちるので、ちょっとスリルのある虫探しです。キタキチョウは明るい所を、クロコノマチョウは薄暗い所を飛んでいました。枯れ葉そっくりなクロコノマチョウは、枯れ葉に止まると見つけるのは至難の業、まさに忍法隠れ蓑術！どちらも成虫で越冬します。



クロコノマチョウ

ニホントビナナフシ

ヒトオビトンビグモ

クロエンマコガネ？

ニホントビナナフシがきれいなピンク色の後翅を見せてくれました。「こんな小さな後翅で飛べるのか？」「後翅はなぜこんなに美しい？」飛ぶかどうか確かめようと少し投げしてみると、やはり飛ばずに地面に着地しました。威嚇しているところは見たことはありませんが、美しい後翅は威嚇に使うのでしょうか？

ブルーシートのキノコの山に紛れ込んでいたのはクロエンマコガネ？おいしいキノコを食べるのかな。
(他に観察された昆虫) モリチャバネゴキブリ、オオカマキリ、モリオカメコオロギ、エンマコオロギ、チャバネアオカメムシ、シマサシガメ幼虫、アカサシガメ、ツマグロオオヨコバイ、アオバハゴロモ、ヒメアカボシテントウ、マダラアラゲサルハムシ、オオスズメバチ、ムネアカオオアリ、ヨスジノメイガ、マエキノメイガ幼虫
(観察されたクモ) ショロウグモ、ワカバグモ、ギンメッキゴミグモ、ヤリグモ、ヤギヌマフクログモ、ツクネグモ、シャコグモ、チャイロアサヒハエトリ、マミジロハエトリ、デーニッツハエトリ、アリグモ (田島)

○ダニ調査

昨年は台風被害のため秋の調査ができなかったため、今年が初めての秋の調査になりました。どんなマダニが採取できるか楽しみでした。結果は成虫が0個体、若虫がチマダニ属1個体とチマダニ属の幼虫が採取できました。成虫や若虫の個体数は、初夏や夏より少ない印象を受けました。詳細な調査結果は来月以降にお伝えしたいと思います。余談ですが、調査最終日で他の調査地点が残っていたため、やむを得ずお昼過ぎで帰り、吹春先生のきのこの話を聞けなかったのが非常に残念でした…。(松山)

○植物など



アキノギンリョウソウ



イヌガヤの実



このコケ何ゴケ？



ヒバカリ

お知らせ

次回活動日は11月23日(祝)です。9月に支柱まで建てたシカ防護ネットを完成させるとともに、遊歩道周辺の林内整備、ほてい岬の整備を行います。野生キノコもまだまだ期待大です。

頭上からの落枝から身を守るためにも参加者はヘルメットをお忘れなく。またチェーンソーをお持ちの方は持参してください。防護ズボンは会備品があります。9時30分清和自然休養村(直売所)集合です